2022.02.10. 木曜礼拝　神が動かれるのを待つ

イザヤ書 64 章

JD ファラグ牧師

こんばんは。週半ば「聖書の学び」へようこそ。木曜日の夜は、聖書を書ごと、章ごと、節ごとに学びます。今夜は「イザヤ書 64 章」です。今夜学び終えると、、、ええ、主の御心ならというべきですが、残すところあと 2 章です。この素晴らしい書を終えようとしています。皆さんが言わないなら、焦らず、今夜は 1 章しかやりません。 その理由は後ほどご説明します。まず祈りませんか？ 今夜の聖書の学びを、神が祝福して下さるよう、一緒に祈りましょう。

天のお父様。主よ、どうもありがとうございます。私たちは、ただあなたに、あなたの愛に心から感謝します。主よ、今夜私たちは、本当にあなたが私たちの心を静め、落ち着かせていただきたいのです。私たちはこの時間をあなたに全集中し、あなたのために捧げたいのです。主よ。気が散ったり、心を奪われたり、思考が彷徨ったりしたくありません。主よ。私たちはただ集中し、今夜、あなたがご用意下さったものを受け取れるよう、私たちが専念し、集中できるよう聖霊に助けていただきたいのです。主よ。今夜、あなたが私たちへの御言葉があられるのを分かっています。私たちの人生に、心にあなたが語りかけてくださることを楽しみにしています。主よ。私たちがあなたの語りを必要なのを、もちろん認め、告白し、認識します。特に、こんにちの世界で起こっているすべてのことに関連して。主よ、私たちは飢え渇いています。あなたが提供下さるその水を飲みたいのです。そうすれば、私たちは決して渇きません。私たちの魂の渇きを満たすことができるのは、あなただけだからです。ですから主よ、そうしてくださいませんか？　主よ、気が散らないよう、はっきりと話してくださいませんか？　あなたが静かな小さな声で語られるのを聞きたいのです。ですから主よ、お語り下さい。あなたのしもべが聞いています。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

それでは！　先週、また 1 章だけ取り上げることに決めました。今夜は大変短い章です。短い章だからといって、聖書の学びの時間が短くなるわけではないのをご理解ください。それはさておき、祈りについては、「祈る長さではなく、祈る強さだ」と言われます。それは祈りの話で、聖書の学びについてじゃありません。はっきり言っておきますね。しかしこの章は、急いで読もうとせず、一晩かけてでも読むべき章の 1 つです。何よりも「主を待ち望むこと」が語られているからです。9 節に入ると、少なくとも皆さんにそうであってほしいと思うのは、私にとってそうであったように、聖書のページから飛び出してきて、穏やかに顔を叩くのです。ええ、それが、神が私に必要としておられるんですけどね。殊に、主を待ち望むこと、主において待ち望むこととなると、9 節に入ると、主を待つ者のために神が動かれることを明確に示します。待つ。私は待つのが大嫌いです。それが問題です。これからお話しします。実はこれ、63 章からの続きなんです。続きだと言う理由は、原文では章での区切りがなかったのは皆さんご存知だと思います。感謝な事に、後に章が区切られたのです。これ想像してみてください。「今夜学ぶ、イザヤ書を開いてください。ここから、最後まで学びます。」「どこですか？何章？」「章や節もありません。」そう、ありがたいことに、あるんです。しかし、それは祈りの続きで、実は祈り以上です。また、泣き叫び以上です。主に祈るだけではなく、泣き叫んでいるのです。興味深いのは、63 章の「叫びの祈り」は、神に天から降りてきてほしい、または天からご覧になってほしいというものでした。そして今やご覧になるのではなく、来てほしいのです。今すぐに来てほしいのです。前は、ご覧になってほしい。今は、来てほしい。それが叫びです。正しくない者を裁き、正しい者を救うため、天から来てほしいという祈りで

す。これから見ていくように、実にこれは救いが必要な罪びとのための、神の憐れみを求める嘆願なのです。私たちの義の故にではなく、主の義、イエス・キリストにある義の故に。繰り返しますが、見ていくのは、実際かなり生々しいですが、私は先走りすぎていますね。では、1 節から始めましょう。この叫びを聞いてください。

イザヤ　64

1 どうか、あなたが天を裂いて下り、あなたの前に山々が震い動くように。

2 火が柴木を燃やし、火が水を沸かすときのごとく下られるように。そして、み名をあなたのあだにあらわし、もろもろの国をあなたの前に／震えおののかせられるように。

3 あなたは、われわれが期待しなかった恐るべき事を／なされた時に下られたので、山々は震い動いた。

わお～シャレではなく、地を揺るがすようなスタートを切りましたね。しかし、再度、前の 63 章が、神にご覧になってほしいという祈りでしたが、今やこの 64 章では、神に来てほしい、震えおののかせてほしい、という祈りです。国を震えおののかせ、シナイ山でなさったように、山を震い動かせてほしい、という祈りがこの 3 節です。ここがポイントです。主はなさいます。もうまもなくですよ。私は特に 2 節が好きです。諸国を震えおののかせるという具体的な内容があるからです。彼らの目には神への恐れがありませんが、神の御前で神を恐れ震え上がるその日が来るのです。

「御名をあなたのあだ（敵）にあらわし、＝敵にご自分の御名を知らせる」という具体的な内容にも注目してください。敵はあなたの御名を知らない、あなたを恐れていない、という意味が込められています。彼らの目には、神への恐れがない。しかし、その日が来る。これが祈り、心の叫びなのです。

神よ、あなたが来られ、それを正して下さいますように。間違いを正し、諸国を裁き、諸国を揺るがし、あなたの敵にあなたの御名を知らしめてくださいますように。4 節、

イザヤ　64

4 いにしえからこのかた、あなたのほか神を待ち望む者に、このような事を行われた神を聞いたことはなく、耳に入れたこともなく、目に見たこともない。

OK。よろしければ、どうかお付き合いください。お許しいただき、逆にしてみます。ただ説明という目的で、こんな風に読んでください。神が、神を待ち望む者のために動かれるのであれば、待ち望まない者のためには動かれないのが当然ではないでしょうか？　私は「はい」と答えます。私自身の経験から証言します。何度、私は神に先んじて突進し、神がなさるのを、神はなさられたいのに、待ちませんでした。自分の忍耐のなさ、焦りのせいで、いつも、主を待たずに後悔してきました。主を待ったときには、後悔したことはありません。それ以上に素晴らしいのは、4 節の最初の部分が、単なる詩的な言葉でこの祈りをしているわけではなく、いにしえから、世界が始まったときからあなたの他に、あなたのような神を聞いたことのある者、認識したことのある者は一人もいない。お～神よ、いにしえから誰一人としてそんな事を見た人はいません。使徒パウロが書いたことと同じです。たぶん、第一コリント、2 章だったかな、間違っているかもしれません。いつも間違いますね。家内に言わせるとそう…とにかく、彼は基本的に「私はどんな心も理解できないのを見てきました」という趣旨のことを言います。神が私たちを待って下さっていることを誰も感じ取っていない。理解できない、計り知れない。(I コリント 2 章参照)

よく考えてみると、限りない方が、限りある者にご自分を明かすことはできません。このような理由で、私たちには、多くの答えのない「なぜ？の疑問」がたくさんあり、永遠のこちら側は、これからもそうでしょう。仕方ないです。神が答えないのではなく、お出来にならないのです。なぜなら、神が答えられた

としても、仕方ないのです。私たちの反応は、その答えを理解することも、分かることもできず、さらに「なぜ？という質問」をするでしょうから。ですから私たちは理解できず、分からず、聞く耳がなく、見る目がありません。ここには、聞いたことも、見たこともない。それを見た目も、聞いた耳もない。主を待ち望む者のために行動する神は、あなたの他にはおられない。「イザヤ書 30 章 18 節」覚えていますか？　何週間前に学んだか覚えていませんが、それゆえ、主は待っていて、あなたがたに恵を施される。（イザヤ　30：18）

私が主との歩みの中で学んでいることがあります。主には完璧なタイミングがあられ、与えたいものを時期を早めて与えられません。また私たちもそうしてほしくないのです。なぜなら、もし神がそうされたら、神が私たちに与えようとしておられる豊かな祝福を奪い、妨げかねないからです。ですから、私たちは待つのです。待っていてください。「いつまでですか、主よ。」「待っていなさい。」待つだけの価値はあると思いますよ。言わば待っていれば、神があなたのために行動して下さいます。ここに私たちの問題があります。私たちの問題と言っているのは、好むと好まざるとにかかわらず。皆さんが私同様だからです。私たちは待ちたくありません。では、どうするのか？自分の手で問題を解決する。殆どこんな感じです。簡略化して説明するのをお許しください。しかしそう、神が仰います。　「待っていてくれるなら、わたしがあなたのために行動します。わたしを待ち望む者のために、わたしは行動します。しかし、あなたは待ちたくないと思っているようですね。わたしの代わりに自分でやり、わたしを待たず自分の手で問題を解決するなら、あなたは後悔することになるのですよ。」先週、主との時間の中で、「第一サムエル記 24 章」に時間を費やしました。その記述は、ダビデがサウルから逃げている時の話で、自分を殺そうとするサウルから逃げ出し、エンゲデのある洞窟に入りました。一緒にイスラエルに行ったことのある人、エンゲデには、洞窟がたくさんありますよね。追ってくるサウルから身を隠しながら、ダビデは 600 人の従者と一緒に、エンゲデ中の全洞窟の中で、とある洞窟に隠れます。そこにサウルが、3000 人の従者と来ます。ただの 3000 人ではありません。特殊部隊だったのです。選ばれたエリート兵士たち、その数 3000 人。彼らはダビデを殺すため追いかけて来ています。彼らが、エンゲデにいるのです。一緒に行った方、非常に暑く、非常に乾燥していますね。そしてサウルが、、、彼の年齢は分かりませんが、こんな風です。「おい、お前たち、私はちょっと昼寝をし、休みたい。」実際に原語でそうなっています。物語的に言えば、「私はただ入っていける洞窟を見つけ、横になりたい。日陰に入りたいのだ。暑さで死にそうだ。」そしてサウルは洞窟に入ります。彼はどの洞窟に入ると思いますか?　もしも～し？　ダビデがいるその洞窟ですよ！！！　ダビデは閉じ込められます。ダビデ達はその洞窟の奥にいるから、もう動けません。サウルの方は、気づいていません。神よ、感謝します。サウルは、ダビデとその従者が同じ洞窟の中にいるのに気づいていません。エンゲデにあれだけ洞窟があるのに、サウルが昼寝して休憩する為、入ったのがその洞窟。ダビデ達は動けません。サウルがどのくらいそこにいたかは分かりませんが、ダビデの部下は、サウルが眠っていることに気づき、ダビデのところに行って、こう言いました。「ほ～完璧です。これは主ですよ。」そして、ダビデに聖句を引用さえします。

『主はサウルをあなたの手に渡されます』（第一サムエル　17：46 参照）

心に留めておいてほしいのは、ダビデはイスラエルの王になるため油を注がれているということです。そんな彼の前に立ちはだかったのが、サウルでした。彼は剣の一突きで王座を奪えます。この章には、私にとって忘れられない教訓がたくさんあります。保存版を見返してみました。お～ 殆どこんな感じで、その章は多くの事があるので、もう一度教えたいと思っています。その章を読み切るのに 2 週間はかか

ったと思います。そこから得られる教訓の一つは、時に、身近な人が自分にとって最良の助言者ではないという事です。なぜなら、それが神が彼にさせようとしていることではないからです。それを見抜いていたのがダビデの功績です。部下たちは聖句を引用しています。「これは神の御心です。神は彼を渡されました。確率的にはどうでしょう？ダビデ様。サウルは最後には一人になるのでは？　睡眠時無呼吸症候群のため、いびきをかいています。バイパップがないから。いびきをかいて眠っています。今すぐにでも彼を殺して、王位を奪うことができますよ！」ダビデは剣を取ります。600 人の従者がこう言っているのを想像します。「そうだ！そうだ！！やれやれ！！」起こしてはいけないので、静かな声援です。ダビデは剣を取り、彼は頭を切り落とさないのです。サウルの上着の裾を切ります。それでさえも、心の責めを感じます。サウルが主に油注がれた人だから。ポイントは、それがここ 4 節で見る事に繋がります。ダビデはサウルの衣の裾を切り、そして、サウルが目を覚まして洞窟から出ると、ダビデはサウルの後ろから出て来て言います。大変緩い言い換えですが、「サウル、見て見て～。私がしたことを。」それでサウルは全部知るのです。「私は愚かだった。あなたは私よりずっと正しい。」（などなど、何でも構いませんが）賢くありません。サウルを捕まえられたのに。しかしサウルは気づいたのです。ダビデがまさにそこで自分を殺すことが出来たのにしなかったのを。なぜか？　ダビデは待ったのです。彼は待ったのです。これについて考えてみてください。議論や説明のために、ダビデがその場でサウルを殺してしまったとしましょう。そしてその方法で王座に着いたら？　神は仰います。
「わお～それはやめておいてほしいかったですね。まだその時期ではありません。またそれだけでなく、あなたが信仰ではなく、力で王座を得るのは、わたしではなく、あなた自身の手によるものです。」
さて、どうなるのでしょうか？　私は、聖書に書かれているダビデ王は、ダビデ王についてを読んではいないのですよ。詩篇から読み始めたほうがいいかもしれません。こうはしないでください。これは仮定の話ですから。あなたの聖書からいくつかの詩篇を削除しなければなりません。そのうちの 1 つが、追い詰められたとき、どうやって主が救い出して下さるのかについてをダビデが語る箇所、その経験から生まれた詩篇 57 篇です。主があなたを救われます。主があなたを正しく評価されます。主はあなたのために復讐して下さいますが主がなさる事を待つのです。自分の手でしないでください。神がなさるのを待ってください。あなたの思う時に、あなたの方法で、あなたの力でするなら、神は仰います。「自分がしたことを後悔することになるでしょう。なぜなら、わたしがやろうとしていた方法、わたしがやろうとしていた時期、それが完璧だったからです。今、あなたは深刻な問題を抱えます。」皆さんの中には、オズワルド・チェンバーズのデボーション「My Utmost for His Highes」をご存知の方も多いと思います。何年も何年も前の話ですが、実に、1 月 4 日のデボーション、これに尽きます。チェンバーズは言います。
「神より先を急いではいけない。神がなさることを待ちなさい。」神が自分のために動いて下さるのを待つ。イザヤ 60 章 44 節ではありませんが、ペテロが主に先んじて予測して予見していた時のことで、主を待つのではなく、主に先んじて行動したのです。主は仰いました。「いけません。_____を焦ってはいけません。」空欄を埋めれますね。空欄のままにして、主がそれを満たして下さるのを待つ。なぜなら、あなたが主の前を急ぎ、主の代わりに自分でするなら、主との関係の断絶です。焦ってその場の衝動で決めるその決断が、主を待たないことで、チェンバーズは言います。時に、何年もかけて解決するような問題を自分たちで作ってしまうこともある。お～自分の最初の頃を思い出します。何年も前のことですが、そのデボーションを最初に読んだとき、、、私はチェンバーズとは愛憎の関係にあります。A.W.トウザーもそうです。私は一時期、デボーションの中で実際トウザーを読んでいた時期がありました。こんな感じ

です。「う”～あ”～う”～」ついに私はトウザーのデボーションの書を全部、しまいました。「違う！嫌だ！」そして、3、4ヶ月後に戻ります。「分かったよ。もう一度やる！」つまり、ボコボコにされるんです。これがその1つで、自分に考えたのを覚えています。「うん、それが全てを物語っているな。」私は、主が私のために行動してくださるのを待たなかった時の全ての記憶を、頭の中で巻き戻し始めました。私なら、サウルの頭を切り落とします。私は信仰ではなく、力づくで手に入れたでしょう。私は主を待たず、自分の肉の力でしました。葛藤や問題が山積みになって、今でも残念ながら回復されていません。できる限りの努力をしてきました。主は心をご存知ですから、主のタイミングが完璧なのです。もしダビデがその時、サウルの頭を切り落としていたら、600人全ての従者が、全てのエルサレムの人々がそれを聞き、彼らのダビデへの全務めが、ダビデへの愛が一生損なわれたでしょう。というのも、結局のところ「あの人は、主を待たずに、自分の手でサウルを殺してしまった人。」サウルは、そんな死に方をしませんでした。ましてやダビデの手によって、死ぬことはありませんでした。サウルは、アマレク人の手によって死ぬことになります。サウルが排除するように命じた正にそのアマレク人によってです。ここに別の学びがありますね。第一サムエル記、第二サムエル記の学びでもそうでしたが、罪には容赦なく対処しなければなりません。罪があなたを容赦なく対処するからです。肉の行いを自制する事。アマレク人は肉の型です。自分の人生のアマレク人を殺さないなら、アマレク人があなたの人生を滅ぼします。サウルは正に、そのような結末を迎えたのです。しかし、ダビデの手によるのではありませんでした。神の御手、神のご方法、神の時だったのです。主を待つのです。主はいつも完璧なタイミングで、完璧な方法で、それを実行されます。自分がしようとするなら、お～あなたがそれを台無しにします。ペテロがもう1つの例ですが、、、ん～言います。イエスが逮捕された時の記述をご存知ですね。それも読んでいました。なぜ自分がそうするのか分かりませんが、私は、この人たちに共感します。それが自分だからです。ええ、皆さんもですね。つまり、ここに彼らが出て来て、彼らがイエスを逮捕しに来たとき、ペテロは何をしましたか？　ペテロはダビデのように剣を出し、大祭司マルコスの耳を切り落としました。そしてイエスは、イエスの口調に軽蔑や嫌悪感があるとは決して思いません。もっとこういう感じです。「ペテロ、何をしているのですか？」そうまず、イエスはマルコスの耳を癒されます。私たちはきっと天で、マルコスに会えますよ。それが私で、私にそんなことが起こって、イエスが癒して下さるなら、私は救われます。「彼が私の救世主だ！！！」で、私は天国にいますよ。ですから私たちはマルコスに会いますよ。彼には栄光の耳があるでしょうね。私は、何個の耳を切り落としてきたのか？　何人のサウルを殺してきたのか？　自分の手で問題を解決し、肉的な武器で霊的戦いをしているのか？　あちこちに血痕を残してしまいました。待ちなさい。待つのです。待つのです。神がそれをなさいます。お～あなたが、神がなさるだろうと思っているような方法では神はなさいません。私たちって、神が私たちの祈りにこう答えられる筈だと思う方法をほのめかすのがとても上手です。方向性ある祈りと呼ばれるものです。こう言う風です。

「主よ、、、私たちは御座に請願し、「主よ、どうかあなたが、、、」で、私たちは神に、どうやって、いつ、どのようにして自分の祈りに答えて下さるか、指示や指図をし始めるのです。そして神が、「わお～何て？もう一回言って。それって、凄いじゃない。そんなこと考え付かなかったよ。」ですか？　子どもたちにこうなりますよね。「手伝いたい？では手伝わないで。」「わたしを手伝いたいなら、わたしの方法を邪魔しないで、さがっていなさい。手伝おうとしないで。」可愛らしいのですよ。本当に。子どもが小さい時でそうじゃないですか？「ねえ、パパ。手伝っていい？」「あ～分かったよ。おいで。」そして、全てを台無しにしてしまうのです。お～とても可愛らしいのですよ。でも、自分なら30分でできるはずのことを

10 時間もかかるのは、邪魔をして混乱させたからです。私たちはそれを主にしているのです。私たちはただそこに入りたいのです。「ほら、神様〜！」と。あえて、アブラハムとサラの話をしてみましょうか。あの血だらけの騒ぎはどうですか？　イシュマエルが何人いますか？　自分自身に話しています。私は多くのイシュマエルを生みました。イシュマエルは肉の型で、イサクは御霊の型です。なぜイシュマエルが生まれたのか？　彼らが待てなかったからです。ただ待てばいいのに。
「はい。でも主よ、あとどのくらいですか？」「待っていなさい。」「はい、でも主よ、もういいじゃないですか。」聞いてください。主は決して遅らせておられません。決して早すぎることもなく、遅れておられるのではありません。主のタイミングは常に完璧です。今や、サラは 90 歳です。これって、皆さん、「もう待ちきれないわ。あなた、私を見てよ。あなたももう若くありませんよ。」ですから彼らは、待たなかったのです。待ちたくなかった、その結果は？　イシュマエルが生まれました。皆さん、気づいていますか？　何世代も前のあの 1 人の男性と 1 人の女性によるあの 1 つの決断から、こんにちへの影響、結果。二人とも共犯ですよ。記述のどこにもありません。アブラハムが「いやハニー、僕らは待とう。」と言うのが。事実こんな風です。「ハニー。これがハガルだよ。」「ええ、彼女のことは気づいてましたよ。」抗議もない。疑問もない。アブラハムからは何も出て来ません。皆さん見てみてください。何か見つかれば教えて下さい。しかし、ボーン！　それだけ。つまり、2 人とも共犯なんです。つまり、アブラハムも妻と同じように焦っていたということです。ご主人方、奥様方、ちょっとお付き合いくださいね。夫として毎日、妻にこう言わせるのが想像できます？「ハニ〜〜〜　神は息子を約束してくださったのよね？私はまた、誕生日を迎えましたよ。私たち、何とかしなくては。」ですから私は、私自身が夫としてアブラハムに公平な立場でおそらくこの観点から、彼を責めてはいけませんね。「私ももう耐えられませんよ。」皆さんの事ではありませんよ。完全に間違った方向に行ってしまいましたね。ー(笑)ー
「しかし、そうだね、ハニー。」なぜなら夫として、、、皆さん、そうでしょ？　頼みますよ。夫として、妻に幸せでいてほしいです。「幸せな妻、幸せな人生。」という言葉がありますよね。勘弁してくださいよ。それってどれだけ事実です？　ママが幸せじゃないと、誰も幸せにならないさ。ですからここでアブラハムは、、、何と言うのか。「OK。いいよ。」そして彼らは待たなかった。今、大変罪を示されました。ですから 5 節に進みたいと思います。
イザヤ　64
5 あなたは喜んで義を行い、あなたの道にあってあなたを記念する者を迎えられる。見よ、あなたは怒られた、われわれは罪を犯した。われわれは久しく罪のうちにあった。われわれは救われるであろうか。
わお〜〜　別の翻訳では、より原文に忠実に表現されています。「どうすれば我々は救われるのか？」ここで祈りの方向性が変わり、罪の問題と救いの必要性が認識されるという意味です。ここで神に泣き叫び、「あなたは喜んで義を行い、あなたの道にあって、あなたを記念する（心に留める）者を迎えられる。問題は、私たちが罪を犯したことであり、救い主が必要であり、救われなければならないということです。」それが第一の問題で、罪の問題です。なぜなら、私が義ではないから、私が罪びとだから、確かにあなたの怒りはもっともです。私には罪の問題があり、罪の問題があるだけでなく、6 節に、私には義の問題があります。何ですって？　6 節を聞いてください。
6 われわれはみな汚れた人のようになり、われわれの正しい行いは、ことごとく汚れた衣のようである。…
（これ覚えておいてください）

…われわれはみな木の葉のように枯れ、われわれの不義は風のようにわれわれを吹き去る。
いや、本当に困ったものです。本当に困ります。罪の問題だけでなく、私には不義の問題があるようですね。というのは、自分の中の自分自身の義なら、汚れた衣のようなものです。この意味の生々しさを指摘することをお許しください。原語では、この言葉には月経用の布のイメージがあります。それが私たちの義。私たち自身の義は、主にとってはそうなのです。想像してみてください。私たちの義がそうなら、私たちの罪は主にとってどんなものか。では、私たちの義についてお話しましょう。なぜ汚れた月経用の布に例えられるのか？　なぜなら、月経用の布とは死を象徴するものだからです。受胎の死。誕生するはずだったものの死。罪の報酬は？　死です。（ローマ 6:23）
ですから自分の義は、罪のように、死という報酬があります。自分の義とはこういうものなのです。イザヤは、多くの人が信じているように、ここに記録されているように祈り、泣き叫んでいる人物で、彼の名誉のために言うと、彼は神の御前での自分の状態と、すべての人間の状態を認識しています。私たちの罪において、私たち自身の義においてさえ、私たちには救い主が必要です。
7 あなたの名を呼ぶ者はなく、みずから励んで、あなたによりすがる者はない。（なぜか？）**あなたはみ顔を隠して、われわれを顧みられずわれわれをおのれの不義の手に渡された。**
ここを想像してください。力強く、意味が深いです。私たちは自分の罪と自分の義の中にいるから、汚い布のようなものです。神はそれを見ることさえお出来になりません。私たちが汚れているから。神は御顔を私たちから隠されます。神は完全で、神は聖なる存在であられるため、お出来になりません。そして神は義であり、私たちは不義です。　なので、ここで私たちはどうするのか？　ええ、良い知らせです。その責任は私たちにありません。説明させてください。一見読むと、見落としがちですが、神が私たちに手を伸ばされることに関係します。私たちからは主に届かないからです。再度、お付き合いください。以下が宗教なのです。宗教がいうのは、「人間が神のためにせねばならない。」です。それが宗教です。
キリスト教が言うのは「あなたには出来ません。私たち誰しもが罪びとで、神の栄誉を受けるに届かない。」ですから、神に到達することが不可能なのです。あなたは常に、神の義という完璧な基準には達していないから。義になることはできません。先ほど説明したように自分の義では。となると、私はもうおしまいです。どうすれば誰もが救われるのか？　私は罪を犯し、汚れています。あなたは私から御顔を隠されます。自分の咎のために、私は滅びます。すると神は仰います。「解決策があります。わたしが、あなたに手を差し伸べましょう。なぜなら、あなたからはわたしに届く事ができないからです。これがわたしの方法です。わたしが人になりましょう。そして、地に降りて行き、人になって、あなたの罪の身代わりになります。わたしがあなたのために死に、その罪の代価を支払います。そうすれば、私たちは再び一緒になれます。それはあなたのためになりますか？」（JD 牧師挙手中）「はい、なります！！！」待ってください。これを理解しているかどうか確認します。「私があなたに到達するのは不可能です。あなたはそれを知っておられたから、私に届くよう降りてきてくださった。」「そうです。」わお～これが神です。あなたのような神がいるでしょうか？（詩篇　113：5）
人が神のためにする（宗教）ではない。宗教とは、イスラム教、仏教など、すべての宗教ですよ。全て人間が神のためにするのです。それが宗教です。キリスト教は、神が人間のためにしてくださったことです。神が人となられ、人のために死なれ、人の罪を贖われたのです。そうすると、人は神と一緒にいれるのです。わお～本土では、鳥肌が立つと言いますね。ここハワイでは、鳥肌物と言います。そこで置いておきます。8 節、これは本当に興味深いですね。

8 されど主よ、あなたはわれわれの父です。われわれは粘土であって、あなたは陶器師です。われわれはみな、み手のわざです。OK〜〜！！　ええ、まず第一に、この「陶器師と粘土」という言葉は、預言者エレミヤが繰り返しています。ところで、イザヤ書が終わったら、エレミヤ書ですよ。待ちきれません。書を学び始めるとき、どの書についてもそう言いますが、エレミヤ書を始めるのが待ちきれません。しかし預言者エレミヤがこのことを参照し、「陶器師と粘土」「父と子」について使徒パウロもこの参照しています。なぜか？　なぜなら、粘土は陶器師のものです。粘土は陶器師の作品です。新約聖書原語（ギリシャ語）poema/ポイマが英語で詩（ポエム）の語源で、私たちは神の芸術作品なんです。私たちの中で良い仕事を始められた方は、忠実に完成させてくださいます。キーワードは、完成。つまり、まだ完成していないという意味です。皆さんも聞いたことがあると思いますが、昔は車にバンパーステッカーを貼っていました。今でも人々はしてますか？　分かりません。私はしたことないので。特にクリスチャン教系のものはつけないようしています。理由は、私の車を運転する家内の運転の仕方のためです。冗談ですよ。彼女がいないから、そういうことにして、間違いなく聞いたことあられるでしょうが、”クリスチャンは完璧ではなく、赦されている。”　”私はまだ未完成”　”神はまだ私を完成させておられない。”
ええ、それがイザヤがここで語り、ここで祈っている事なのです。あなたは私たちをまだ完成していなく、あなたは私たちの父で、私たちはあなたの御手の中の作品、あなたの御手の中の粘土です。またこういう考えもあります。「私たちはあなたの慈悲のもとにいて、私たちの人生は、陶器師であるあなたの御手の中にあり、私たちは粘土です。私たちに優しくしてくれますか？　私たちに慈悲を与えてくださいますか？　私たちはあなたの作品です。そしてあなたは父です。あなたは父、あなたが好むと好まざるとにかかわらず私たちはあなたの物です。」それがここで主が仰る事です。
9 主よ、ひどくお怒りにならぬように、いつまでも不義をみこころにとめられぬように。どうぞ、われわれを顧みてください。われわれはみな、あなたの民です。
これは懇願で、慈悲を求めているのです。「憐れんで下さい。主よ、ひどくお怒りにならないでください。」留意ください。慈悲を求める嘆願の基盤は、「私はまだあなたの子どもで、あなたは私の父です。」殆どこんな感じです。この描写をお許しください。しかしより良い描写がないので、「神よ。あなたは私と離れられないのよ。」聖なる方法です。いいですか？　そう言っているのです。「私たちはあなたの民です。覚えておられますか？　あなたは私の父です。あなたは陶器師、私は粘土です。覚えておられますか？」
イスラエルの子どもたちについて、神とモーセの間で交わされた多くの対話についてを考えます。彼らは行ったり来たりしているある記述があります。神はこんな感じです。「あなたの民は、、、」モーセが言います。「彼らは私の民ではなく、あなたの民で、行ったり来たりしているのです。」双方が所有権を持ちたがらないのです。別の記述のある時点で、神はこんな感じです。「これで終わりだ。終わった。」そしてモーセに仰います。「こっちに来なさい。」「彼らに与えた約束を、あなたに与えようと思っている。」（申命記　9：14 参照）
私がモーセなら、こうです。「はい。私にとってそれは良いですね。そうしましょう。」しかしモーセは違います。「いけません。神よ。そうなさってはなりません。」（申命記　9：26 参照）
私なら、「モーセ、君〜　今の提案を聞いていたのかい？」モーセは言います。「そんなことをすれば、、、彼らはあなたの民です。そんなことをしたら、、、神はもうご存知だったので、こうではあられません。「わたしは大丈夫、なんでも構わない。」違います。神は、モーセの反応がそうなると分かっておられました。そうでなければ、モーセにそのような申し出をされなかったでしょう。神は最初から最後まで知ってお

られます。モーセにこのようなことを任せられることをご存知でした。アブラハムがイサクを生贄に連れて行った時を考えれば、神はアブラハムが何をするか既にご存知だったからです。しかしここで重要なのは、アブラハムは、自分が何をしようとするのか分からなかったことです。モーセの場合も同じです。神は、モーセが何をするかをご存知ですが、モーセは、自分が何をしようとするのか分かりませんでした。神には、私たちに私たちを示すため、神だけが御出来になる方法があられます。神は私たちをご存知だからです。神は私たちの心をご存知です。神は、神が信頼なさる柔軟な神の者として、モーセの謙虚な心を知っておられます。だからこそ、イスラエルの子どもたちを最初からモーセに託したのです。モーセが拒否して、訴えることを知っておられたのです。別の事例があります。　はい、複数ありますが、「民数記 16 章」だったと思います。お付き合いください。これは私のお気に入りの記述の 1 つで、これが私のお気に入りの記述の 1 つなのを許してほしいのですが、モーセの従兄弟のコラ。モーセに異を唱え、基本的に挑戦して、こう言います。「あなたはまた、自分がすべてだと思っている。」再度、これは緩い言い換えですが、「自分のことを考えすぎている。自分を何様だと思っているんだ？　神は、あなたを使って語るだけではあられない。我々だっているのだ。あなたは自分を甘やかしているだけだ。」
モーセはこうです。「私がこの仕事を頼んだわけではない。私は申し出ていない。事実、神に呼ばれたとき、私は実際には断ったのだ。出来ないと神に言った。私は、上手く、は、は、は…話すこともできないのに、私は 40 年間、この羊たちと一緒に砂漠の裏側にいたんだぜぇ、め～～」このモーセを外せない。兄のアロンがいて、あなたがたのために話しては貰える。ですから旧約聖書には、神がモーセにこう仰る箇所が次々あります。「アロンに、民に命じさせなさい。」アロンは、モーセのためのスポークスマン/発言者でした。悪い者を選んだのではないかと思いますが、最悪の候補者はモーセです。聖書全体を通してあります。
「神は、知者をはずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者をはずかしめるために、この世の弱い者を選ばれる」（I コリント　1：27）
で、ここにモーセがいます。彼は今、従兄弟から挑戦を受けています。モーセはこうです。
「マジ？もう何でもいいよ。あのな～こうしよう。明日の朝、あなたと私は、あなたの仲間全員とここで会おう。」コラが選んだ約 250 人が、そういう囁きキャンペーンをしていました。彼は、モーセの立場を奪おうと、モーセに対してクーデターを起こしていました。それでモーセは、「OK。神に決めていただこう。」そういう時の対応に、それが必ず良い方法です。「では、明日の朝一番に、この集会の幕屋に集合しなさい。　神がどう仰るか見てみよう。」彼らは朝一番、明るい早い時にやって来て、コラがやってきました。想像できますね。この男が胸を張り、自分を高ぶっている姿。モーセは、何もする必要さえありません。神が仰います。「よろしい。」神は地を開き、彼らを飲み込まれます。私がモーセなら、こうなります。「素晴らしい。それがいいです。他に私に挑戦したい人はいますか？　今がチャンスだ。」しかしモーセはそうしません。モーセが何をしたと思います？　彼は実際に神がなさっていることを止めるよう神に祈るのです。（民数記　16：22 参照）モーセが何を言いたいかというと、地が彼らを飲み込めば、他のイスラエル人たちが、つぶやいたり、こう文句を言ったりし始める。「これは正しいことではない。これは公平ではない。コラ伯父さんだったんだぞ。」そして、神に文句を言う。神は彼らを殺すだけです。モーセは、「止めてください。」私ならそんなこと言わなかったでしょう。私ならこう言います。「続けてください。神よ、最高です！！」そんな風に私を見ないでください。皆さんだって同じことをしますって。
ポイントは何か？　私のポイントはこうです。神は憐れみ深い神です。神は救いの神です。私たちは神の

民です。この憐れみの嘆願は、この基盤に基づいています。「神よ、私たちはあなたの民です。私たちはあなたの民です。神よ、憐れんでください。憐れんでください。」10 節、

イザヤ　64

10 あなたの聖なる町々は荒野となり、シオンは荒野となり、エルサレムは荒れすたれた。

11 われわれの先祖があなたをほめたたえた／聖なる麗しいわれわれの宮は火で焼かれ、われわれが慕った所はことごとく荒れはてた。

この祈りは初心に戻って、主がご自分の民に代わり、主の御名が故に、主の民、主の町、主の神殿のため行動してくださるのを待ちながら主に嘆願しているのです。これは神の民にある神の御名だからです。「民数記 6 章」私たちが親しみを込めて言う「アロンの祝祷」をよく引用しますよね。ところで、どうかどうかどうかお願いします。”may=かもしれない”を除いてください。”may=かもしれない”は、ありません。主の祝福があるかもしれない、主があなたを守られるかもしれない、主がみ顔をもってあなたを照されるかもしれないではありません。違います。「主があなたを祝福し、主があなたを守られ、主がみ顔をもってあなたを照される。」です。ところでアロンは、イスラエルの民が、幕屋に来るたびにその祝福を宣言するよう命じられました。民はそれを聞いたのです。神は、民にその言葉を聞かせ、その祝福を受けさせたかったのです。それ以上のものがあり、現代の私たちの文化では見過ごされていますがアロンがこの祝福を宣言後、神はモーセに、その理由を仰います。「なぜなら、わたしの民にわたしの名を置いたのです。わたしの名は、わたしの性質です。それがこのポイントです。わたしの名が彼らにあるのを、民に知ってもらいたいのです。中近東の文化では、それが最高の栄誉です。最高の、、、これをどう言えば良いのか？　言葉だけでも伝わればいいのですが、誰かを祝福するには、彼らの上に、神の御名を唱えることが最高の方法なのです。子どものころに、母がアラビア語で、いつも私の上に神の御名を唱えていました。悲しい事に、母は何気なくですが、「アラー・イッサム」と言いました。その名（イッサム）「アラー」、神の御名があなたの上にある。それは、人に与えることのできる最高の祝福です。それで私はその名を、イエシュアに置き換えました。”イエスの御名があなたの上にある。”あなたが誰かに宣言できる最高の祝福です。では、この章の聖書の学びを 12 節で締めくくります。この情熱的で力強い嘆願は、質問の形をとっています。

12 主よ、これらの事があっても／なお、あなたはみずからをおさえ、黙して、われわれをいたく苦しめられるのですか。

それを読んで、その章はそれで終わります。そこから先に進みたいと思いますが、そう急がずに。理由は、2 つの質問を含むこの節は、不可能と思われる状況を表現しています。この祈りは、自分が罪びとだという問題を認めているだけに、たとえ自分が正しかったとしても、自分の正しさは、汚れた衣のようなものです。どうすれば可能なのか？　これでは、私は救われないのでは？　どうしたらいいんだろう？　この質問は、救い主がいなければ答えようがありません。イエスです。問題解決。質問の答えは、罪が贖われ、不義が対応される。それが答えです。「われわれをいたく苦しめられるのですか。」「いいえ。わたしはその怒りのすべて、その苦悩のすべてを取り、わたしのひとり子に置きます。あなたがたへのわたしの愛が故にです。」「あなたは自らを抑えるのですか？」「いいえ、わたしは自分を抑えません。事実、抑えているのではありません。わたしのひとり子を差し控えません。あなたのために死なせるためあなたに送ります。」問題解決。あなたは罪びとです。救い主がいます。あなたに罪の問題があります。わたしには解決策があります。あなたは自分自身の義という問題を抱えています。わたしには解決策があります。

救世主です。彼の名は、彼の名はすべての名に勝る。（ピリピ　2：9 参照）
「天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」（使徒　4：12）
今夜の聖書の学びを終える最高の方法は、神の御言葉のすべての言葉が、イエス・キリストという人物を指し示しているとシンプルに言う事です。神の御言葉のすべての言葉が、イエス・キリストという人物を指し示しています。今回がその事例です。カポノ（賛美チーム）上がってきてください。私たちは祈りで締めくくり、カポノが賛美で締めくくります。ご起立ください。12 節だけですよ。あの～私って、、、書を全部学んだような気がします。たくさん、詰まっています。
天のお父様。御言葉をあなたに心から感謝します。私たちがここで聞き、ここで見たものは、あなたがここで私たちに語って下さった事で、あなたがここで私たちに明かして下さった事です。主よ、私たちがどれだけ罪深いかではなく、あなたがどれだけ愛して下っているかです。それは私たちではなく、あなたなのです。あなたと、あなたが私たちのためにして下さったことが全てです。主よ、ありがとうございます。虚ろな感じがします。感謝してもしきれないからです。しかしこの章のこの叫びは、私たちの叫び、罪びとの私たちの心の叫びです。主よ、私たちはあなたに目を向けます。私たちは、イザヤのようにあなたにお願いします。　主よ、私たちをどうか憐れんで下さい。私たちに怒られるのですか？　いいえ、あなたは私たちに怒っておられません。私たちに怒っておられません。あなたは私たちをこんなにも愛してくださっています。主よ、心から感謝します。あなたを心から愛しています。イエスの御名によって。
アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ
http://www.calvarychapelkaneohe.com/
Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii　　筆記 hukuinn7